

## おみこし くぐって 厄払い



上之保の八幡神社で4月11日、恒例の「先谷まつり」が行われました。祭礼では太鼓や笛の音に合わせて神楽や獅子舞が奉納され、子どもたちによる巫女の舞いには周りから温かい拍手が送られました。

このお祭りでは、棒ふりと呼ばれる鬼に悪口を言って追われたり、みこしの下をくぐって災厄から逃れるなどの風習があります。桜の咲く境内で、参拝者は手をつないでみこしの下をくぐっていました。

## あんな事、こんな事



### 熱意を持って

全日本男子バレーボールの植田辰哉監督による指導者研修会とバレーボール教室が4月10日、わかくさ・プラザで開催され、指導者や小中学生、主婦のバレーボール団体など約170人が参加しました。教室では、技術のほか、精神面を中心に熱心に指導が行われ、試合形式の練習に入るとさらに厳しい指導となり、植田監督らしいバレーボールへの情熱がひしひしと伝わってきました。

### 天までとどけ 交通安全の願い

春の全国交通安全運動(4月6日～4月15日)の初日、関市文化会館駐車場に交通安全街頭指導所を設置し、シートベルトの着用や飲酒運転の撲滅を呼びかけました。啓発の後、国内外で活動している凧揚げ名人、凧作家の小川義明さん(迫間台)を招いて、参加者全員で「交通安全飲酒運転撲滅!」の言葉が一文字ずつ書かれた連凧を揚げて、交通安全を願いました。







## 防火の使命と誇りを胸に

関市消防団の辞令交付式が、わかくさ・プラザで行われ、新たに147人が入団しました。新入団員を代表して武芸川方面隊第1分団の大家雄介さんが辞令を受け取り、力強く宣誓しました。また、山田安彦消防団長が退団され、新しく多田壽夫さんが消防団長に任命されたほか、消防庁が認定する消防団協力事業所表示証が市内3事業所に交付されました。

## コーラス大好き

芸術文化の分野で顕著な業績を収めた団体などに贈られる岐阜県芸術文化奨励賞を受賞した関女声合唱団を代表して、松原典子さん、吉岡常子さん、長沼喜代子さんが来庁し、尾藤市長に受賞の喜びを語りました。関女声合唱団は、昭和53年の発足以来、練習を重ねて表現力、歌唱力を高め、節目となる年には盛大に記念コンサートを開くなど充実した活動を続けており、その実力は高く評価されています。



## 協働による森林づくり

迫間の里山で4月10日、「コープぎふの森・関」の開設式が行われ、コープぎふの組合員や地元住民など約80人が参加しました。面積が約6.5ヘクタールあるこの森は、生きた森林づくり活動の場として、これから企業、住民、行政が協働で整備していきます。式にはヤマリンも駆けつけ、テープカットならぬ丸太カットや記念植樹などで開設を祝った後、参加者は下刈り作業で汗を流し、里山に関する講話を聴きました。

## 豊かな森を次世代へ

奥山の保全・復元活動に取り組む自然保護団体「日本熊森協会」の森山まり子会長の講演会が関市文化会館で4月4日、同協会岐阜支部の主催で開催されました。森山会長は「戦後から続く拡大造林の国策は失敗。保水力があり、クマなどの大型動物が棲める豊かな森を取り戻しましょう」と訴え、会場の人たちは熱心に耳を傾けていました。



## こぼれ話



北大西洋の島国アイスランドの火山噴火は、火山灰がヨーロッパ全土に広がり、航空便に大きな影響を与えました。噴煙が広がる様子を新聞やテレビを通して知り、改めて自然の猛威を認識させられました。

関市では、ブラジルの姉妹都市モジ・ダス・クルーズ市の市長をはじめとする使節団を歓迎する式典や市内視察などを4月20日に予定していましたが、この噴火で使節団が経由地のパリで身動きが取れな

くなり、急きょ中止になってしまいました。来関を楽しみにしていたモジ市の皆さんもお気の毒ですが、お迎えの準備をさせていただいていた関市の皆さんにとっても、大変残念な出来事となりました。

関市にまで影響を与えたアイスランドの火山噴火。中国では大きな地震が起き、多数の犠牲者が出ています。宇宙まで人が行ける時代なのに、自然を前に人はあまりにも微力。いつ起きてもおかしくない東海・東南海地震には、せめて食料だけでも備えたいものです。